掛川市自主運行バスの運賃改定（案）に関するアンケートへの回答

1	運賃改定の必要性は理解するが、路線と便数は維持してほしい。
回答	掛川市の自主運行バスは、市内各地域と掛川駅、医療機関等を結ぶ生活の足として整備・維持してまいりました。一方で、燃料費や物価の高騰、運転士不足の深刻化により、現行運賃のままでは、今後の減便や路線縮小を避けることが難しい状況となっています。 今回の運賃改定は、自主運行バスを将来にわたって維持し、持続可能な移動手段を確保することを目的としています。改定後も、通勤や通学など、市民生活に必要な路線や時間帯をできる限り維持できるよう、運行方法の見直しも併せて進めてまいります。

2	値上げ幅が大きく、現状維持または段階的な改定を求める。
回答	市街地循環線は、20年以上にわたり100円均一運賃を維持しており、全国的に見ても低廉な運賃で市民の皆様の移動を支えてまいりました。そのため、100円から200円の値上げが、利用者の皆様にとって負担となることは十分認識しています。 しかしながら、燃料費、物価、運転士の確保にかかる費用等を踏まえると、現行運賃をそのまま維持することは難しい状況です。運賃改定に当たっては、急激な負担増とならないよう、定期券・回数券等の割引制度を含めて総合的に検討します。また、本年度導入予定のAIオンデマンド交通との運賃バランスにも配慮し、公共交通全体として利用しやすい料金体系を目指します。

3	地域間・区間間の運賃格差を見直してほしい。
回答	南部地域をはじめ、地域によって運賃に差があることについては、市としても認識しています。運賃改定に当たっては、運賃だけでなく、運行本数、掛川駅や医療機関までの距離、乗り継ぎのしやすさなど、地域ごとの状況を考慮します。特に、南部地域との格差是正についても配慮し、特定の地域の利用者に過度な負担が生じることのないよう、地域ごとの運行実態に応じた運賃体系を検討してまいります。

4	高齢者・免許返納者・学生・障がい者への負担軽減を求める。
回答	高齢者、免許返納者、学生、障がいのある方など、バスを日常生活に欠かせない移動手段として利用している方への配慮は重要だと考えています。高齢者への支援として、75歳以上で運転免許を返納された方や取得したことのない方を対象に助成券を配布しています。助成券の利用には申請が必要となるため、今後も制度の内容や申請方法を分かりやすく周知してまいります。 また、通勤・通学定期券については、日常的にバスを利用する方の負担を抑えるため、従来よりも高い割引率を採用する予定です。障がい者割引についても、引き続き利用できる制度とするとともに、乗車時の本人確認が利用者の負担につながらないよう、確認方法の改善についても検討します。

5	回数券・往復券など、利用頻度に応じた料金制度を求める。
回答	通勤・通学などで日常的にバスを利用する方の負担を抑えるため、通勤・通学定期券については、従来よりも高い割引率を適用し、利用する方の負担を軽減する予定です。回数券については、現行制度を維持することを基本とし、新たな運賃設定に合わせて、券種や割引内容の拡充についても検討します。また、ご提案のあった往復券など、利用頻度や利用目的に応じた料金制度についても、利用者の負担軽減策の一つとして検討の参考とします。

6	減便ではなく、利用実態に合わせた運行方法を検討してほしい。
回答	利用者数が少ない時間帯について、単純に減便するのではなく、利用実態に応じて運行方法を工夫することが重要だと考えています。車両の小型化については、昨年度から取り組んでおり、桜木線では普通車による運行を行っています。今後も、利用者数や道路状況に応じた車両の導入を検討します。 また、日中など需要が少ない時間帯については、本年度導入予定のAIオンデマンド交通や、デマンド型乗合タクシーとの併用によって、効率的で利用しやすい交通手段を確保できないか、実証実験等を行っています。通院や通学に必要な時間帯、電車との接続などにも配慮し、定期路線と新たな交通手段を適切に組み合わせることで、地域の実情に合った運行を目指します。

7	運賃改定の周知方法と意見募集の進め方を改善してほしい。
回答	運賃改定やバスの運行内容について、情報が十分に伝わっていないというご指摘は真摯に受け止めています。今後は、バス車内での放送・掲示、バス停、掛川駅、医療機関など、利用者の目に触れやすい場所での周知を組み合わせ、より分かりやすい情報提供に努めます。 意見募集についても、より多くの利用者から意見を伺えるよう、募集期間や周知方法、意見を提出しやすい方法について改善を検討してまいります。